

熊本市歯科医師会会誌

第 52 号



昭和60年度新執行部発足

表紙の写真 “空と海と砂と”

市広報委員 寺脇 博

目 次

昭和60年度 新執行部発足	2
スタッフレベルアップ研修会	徳永 俊英 13
母と子のよい歯のコンクール	弥永 康博・分山 和男 16
勉強部屋「私の10数年間の歯内療法を顧みて」	堀川 秀一 18
新樹会運動会	中川 順一 22
第6回熊本市学校保健合同研修会	合沢 康生 24
本日休診「グルメ会」	関 剛一 26
「人類進化の一側面と認識について」を読んで	西川 庄次 28
60年度補助者講習会開催	斉藤 朗 31
新入会員紹介	32
会務報告	35
編集後記	

昭和60年度新執行部発足



熊本市歯科医師会

会 長 川 崎 正 士

会員の皆様のご推挙により再度1期3年間の会長の職に就くことになりました。省りみますと過去3年間大過なく、会の運営事業をこなしたのも会員の皆様方のご協力特に役員、並びに各委員会の皆様方のご尽力の賜物だと深く感謝いたしておる次第です。私個人の力では何事もしえぬことが皆様の和と努力により大きな実りを得ることは、ひいては

会の発展に継ることではないでしょうか。

切て私共をとりまく環境の中で何一つとっても朗報を齎すものはありません。昨年10月の健康保険法改正、今年3月の健康保険点数改正に於ても複雑多岐にわたり、且つ理解し難く、簡素化の私共の要求は益々遠ざかって行く感がいたします。

税制の問題にしろ、又国家財政の悪化を理

由に医療費の抑制、保険指導、監督の強化等により、益々私共が窮地に追い込まれることは必至であり、之等を避けるためにも私共一丸となって日歯に訴え、善処を期待するものであります。

医療の荒廃は大げさな評言ではありますが、国家の荒廃にもつながることは過言ではございません。適切な医療により初めて健全な身体を健康を保ち、全ゆる活動がなされ、幸福を招き繁栄をもたらすものではないでしょうか。之等を考える時、私共は地域住民に健康と初期医療の大切さをPRすべきだと思います。

又現在社会に於ては一医療団体のみでは解決出来ない事も多々あります。そのためにも全ての医療団体が一体となって今後の地域住民の健康をと考えて3年前に発足したのが熊本市医療専門団体連合会であります。過去2回の健康展を開催し、着実に実績をつくりつつあります。

ここ数年来、新入会員の増加をみておりますが、会の運営上は非常に喜ばしいことではございますが、その反面、診療所の増加により、又健康保険法の改正、点数の改正が拍車をかけて、患者数の低下をもたらし、私共にとっては重大事と言わざるをえません。厚生省においても歯科大学定員数の削減を検討は始めましたが、今直ちに実現され効果が現れるものでもありません。今の難局をのり越えるためには各自の健全経営に外はないと思います。

過去10年間、会費の値上げもなく会の運営、事業を行って参りましたが、保険収入の増加も期待出来ず、ここ数年来、非常に窮屈な会

計とはなっておりますが、それかと言って会費の増額はこの時期には絶対に避けるべきで、運営面、事業面に於て経費節減を計る外はないと考えます。ただ会員の皆様の大切な会費を載いておる以上は会員の皆様に何かの形で還元すべく努力いたす所存でございます。

今後共、皆様のご協力、ご支援の程宜しくお願いいたします。



副会長

山室 紀雄

昭和60年度は社団法人、熊本市歯科医師会の役員の改選期であります。皆様御存知のように再度川崎正士先生が会長に就任され、不肖私にひき続き副会長として協力していただきの要請があり、先般御引き受けした訳であります。

私も昭和49年より専務理事、そして昭和58年より副会長兼専務理事という二役にいささかの重責を感じておりましたが、此の度、幸に鈴木勝志先生に専務理事を引き受けていただき、多少なりとも肩の荷が降りたような気が致しております。

しかしながら、私も再度副会長を引き受けた以上、会長を補佐すると同時に、我々を取りまくきびしい現状を見極め、先生方が執行部に何を求められ、そして我々執行部が何をすべきか十分考えながら、微力ではございますが、歯科医師会発展の為に心を新たに、あ

あらゆる努力を傾注して行く所存であります。

最後になりましたが、会員の先生方に種々の御支援と御協力を頂くと共に、皆様方の御健勝をお祈り申し上げます。



専務理事

鈴木勝志

60年代に入って熊本市歯科医師会を見るに、現況は会員数257名を擁しています。熊本市人口60万人になろうとしている今市人口比約2,300人に1名の割りで歯科医が存在する事になります。数年前、日本中の歯科医も人口比1,500人に1名という事になったら大変な時代がやって来ると言われました。今後当会も会員の増加が考えられます。しかし我々歯科医は現実を見つめて、生活の向上と社会的地位を確保し、健康で毎日の診療生活をより意義あるものとし、未来永劫に至るまで誇り高き職業人として次の世代に継続してゆく事が大切と考えます。それには我々歯科医は互いの調和を計り、研鑽に励み親睦を深め、対外的には力を示し、社会的責任を果たしてゆく事で、今我々が考えている事、つまり居心地の良い歯科医師会の実現は必ずや果されると信じます。先人の教えを忘れる事なくこれから三年間、会員の先生方には各事業の中でお願いと御協力をしていただく事が多いと思いますが、我々の力で住みよい歯科界を築いてゆく為に、会員を主に何事も考えてゆきたく

思っています。当会がもっともっと光り輝いてくる様、懸命の努力を惜しまない所存でございますので、宜しくお願い申し上げますと同時に、なお一層の御指導と御協力をお願い申し上げます。



常務理事

宇都宮啓一

私が市歯科医師会の常務理事を担当して早や十年が過ぎましたが、最初の頃どうやって予算編成を組んで良いのか全然わからず諸先生方のお知恵を拝借したものでした。

今頃になってやっと曲りなりにもそれらしきものが形造れる様にはなりました。

会の経理面からの数字の推移をみてみますと歯科界の盛衰が如実に表われていて非常に興味深く感じるがあります。

四、五年前迄は経費を上廻る収入で、予算編成もやり易かったが現在ではどう切りつけていこうかと大いに苦慮している次第です。

市歯科医師会の年会費は平均一人五万円位で県政連への出費と殆んど同じ位ですが、その範囲内で幾多の事業を盛り込んでやっていく訳ですから各担当理事の苦勞も並大抵ではありません。

しかし今後も会費の値上げすること無く、会の運営を図り、会員の皆様方のプラスになる様やっていきたいと思っております。



広報担当理事

関 剛 一



医療管理担当理事

牧 野 敬 美

広報を担当致しまして四年目になりました。その間会員の先生方には大変御協力を頂き、感謝しています。今後共より読みやすい興味ある会誌作りに委員会一同努力したいと思います。対外的な広報活動があまりありませんでしたが、私の役目は広報会誌を通じて何時も会員の先生方全員が身近に感じられ、誰とでも話し合える場を作り、医療界全体の情報、市歯科医師会各委員会の活動状況等の伝達にあると思っています。

医療界は医師数の増加と共にそれを受け入れる社会側があまりにもお粗末な為に、大きな曲り角に立っていると言えます。よりよい医療を国民に与える為に我々は今何をすればよいのでしょうか。医の倫理とは？ 医と政治との関係は？ 医療界の社会的に安定した地位とは？ 色々と考えさせられる問題が山積みです。

先生方、どうか医療に対して、又仕事から離れた趣味を含めたホットな原稿等を御依頼、お願いしたいと思います。御投稿をお待ち致します。

再度医療管理理事の委嘱を受けて

再び医療管理理事を仰せ付かり、先ず今迄三年間の委員会に対する会員諸先生方の御協力をいただきました事に対し心より御礼申し上げます。

さて、御存じの通り我々歯科界を取り巻く社会情勢は益々厳しくなっています。保険制度改革による収入面の予測は未だはっきりせず、税攻勢は国の予算不足により徴集しやすい所より攻めてきているような感じがあります。しかも人件費、材料費、諸物価は高くなる一方で、歯科医師増加という現実問題をかかえています。又診料は高度化し器械類も精密さを増し必然的に高価なものになってきていることは御承知の通りです。医院を着実に発展させていくには税務、労務、経営と色々な問題が山積みしていると思います。

委員会も前回の経験者が5名、新人が2名皆一丸となって頑張るつもりです。私も非常に微力ではありますが今迄三年間の経験を生かし、少しでも会員の先生方のお役に立てばと心新たにしています。

会員の先生方の益々の御協力、御鞭撻の程呉々もよろしくお願い致します。



厚生担当理事
菅原 洋

三年前、厚生の担当を仰せ付かり、「いい汗かいて健康づくり」のテーマのもと、会員の皆様、支部長先生方の御協力、御支援をいただき、年々、白熱した支部対抗バレーボール大会、会員と従業員とのコミュニケーションをもった、レクリエーション旅行、我々を取りまく歯科界は、増々きびしい状況化にあり、年一回の新年懇親パーティーは会員の連帯の環に一役かっています。さて、今回引続き厚生のお世話をする事になり、「厚生＝親睦、(歯科界は増々会員相互の連帯の環が必要である)の旗印のもと、今期は別に高齢者時代を向かえ、市歯科医師会でも70才以上の高齢者会員は全会員の1/5以上を占めます。高齢者会員の先生方の長年の歯科界の功勞に對して我々は「何かをしてあげたい」の氣持で一杯です。高齢者会員の先生方が、真に歯科医師になってよかった!! 歯科医師会に入会してよかった!! と全会員の先生方も、御家族の方も思われる様な何かをして、その功勞に報いたいと思います。会員皆様の御意見、お知恵を拝借したいと思います。今期も御指導、御鞭撻の程よろしくお願い致します。



学校歯科担当理事
柿原 康男

本年度より理事をお受けし学校歯科委員会を担当することになりました。委員の先生方八名は数年間にわたって学校歯科医院として活躍されているベテランばかりですので、全ての面で心強く思っております。本年度の事業としては、前年度末の事業計画案にそって実施する予定でおり、すでに活動に入っております。当面の問題としては、ビデオテープ16mmフィルム等の、教材の購入の件等考えております。6月13日には、熊本市学校保健合同研修会が産業文化会館で開催の予定で「自ら進んで健康生活を實踐する児童生徒の育成」のテーマで行われます。当委員会の合沢先生に一時間の講演をしていただく事になっております。会の内、外において増々の活動をと考え全員努力する所存です。



社会保険担当理事
杉野陽二郎

前理事の浜坂浩一郎先生が健康上の理由で退任され、その後を受け継ぎ、社会保険委員会を担当することになりました。

前委員会が『社保だより』という、すばらしい業績を残されていますが、心強いことに前委員会のメンバーがそのまま今回も残っていただけることになりました。

60年3月1日歯科診療報酬の改定が実施されましたが、私達社保委員会は改定の内容を仔細に検討し、熊本県社保委員会の指導を把握し、市会員の先生方の御質問や御意見を参考にし、県社保委員会に、市会員或いは市社保委員会の声として働きかけていきたいと思っています。社保に関する先生方の卒直な御意見、御質問など市歯科医師会社保委員会宛、文章にてお寄せ下さい。

本田亘委員長以下6名、一致団結して微力ながら努力致します。これから3年間、先生方の御指導、御鞭撻を宜敷くお願い致します。



口腔衛生担当理事
田 島 宗 穂

再び口腔衛生を仰せつかり、前期にも増して口腔衛生思想の普及、および啓蒙につとめたいと思います。今年度は先づ「母と子の良い歯のコンクール」9月と2月には熊本市民健康推進講座に於ける講演や、市立幼稚園児のフッソ塗布を3回7ヶ所で行なう予定です。

又、1日ないし2日デパートにおける無料検診を企画しております。会員の皆様には3月の健康展においては大変お世話になりました。医療専門団体連合会も積極的に参加し、

歯科医師会の活動を広く他の団体にも理解してもらい合わせて支持協力の体制をととのえて行きたいと思います。

口腔衛生委員会は地味な事業内容ではありますが、一つ一つ実行して行く過程で歯科医師としての使命感を呼びおこすことも、しばしばです。会の皆様の御協力と御理解を宜しく御願います。



学術担当理事
伊 藤 隆 利

先生方におかれましては益々ご健勝のことと存じます。

さて、不肖私が学術面を担当して二期目をえることになりましたが、これからも先生方の生涯研修のお役に立てばと考えながら企画していくつもりです。どうぞ御意見、御忠告をお寄せ下さいますようお願い申し上げます。

最近私の実感として感じていることを記して御挨拶といたします。

“1人の患者を前にした時、口腔機能のいかに複雑なことか、また私共の達せねばならない道のいかに遠いことか!!”



監 事

山 隈 龍 祥

今度び再度監事の職を引き受ける事になりましたが、過去の任期を大過なく終りましたことは、会員皆様方の御理解と御協力によるものと深く感謝致します。

任期の三年の間に、月に一度開催される理事会にも出席し、行事の立案、それに併う予算配分計上等の調整内容を聴取して参りましたが、各理事の先生方は誠心誠意、会の発展のため大切な会員の財産を使途明確、しかも清潔な支出、無駄使いの是正に予算の削減等に意欲的に努力され、会務を運営されておられるのに深く敬服しています。今後も理事の先生方には会長を中心に「人の和」を大切に和気藹々の雰囲気の中で相互協力して、更に会務を遂行され、会の発展に尽力されるようお願い申し上げますとともに、私自身も会員の皆様の公僕となり、微力ながら努力致しますので、今後も宜しく御指導並びに御教訓の程お願い申し上げ、再任の挨拶にかえさせて載きます。



監 事

緒 方 史 朗

もう20余年、母校である済々黉と、第一高校の校医として、例年竜田山の新緑の美しい、4、5月の頃検診に行くのは楽しみの一つで、両校とも古い伝統と歴史を誇る学校である。

生徒一人一人の口腔内の治療の様子は、その治療を受けた歯科医院により異なるが、最近気づく事は、レジン、インレー充填、クラウンブリッチ等、終末処置が極めて丁寧に行われている事で、若く意欲的で立派な先生方が多く育って来られたものと思われる。

しかし最近の歯科医療界は、歯科医師の良心とは別の思惑により、いつれの方向へ行こうとしているのであろうか。

しかしどの様な時代、どの様な趨勢になろうとも、日々確実な診療を行ってれば、我々歯科医師が処置をした補綴物が半永久的にクランケの日常の生活に役立てばいいのかも知れないが。

熊本市歯科医師会

会 長	川 崎 正 士	3 5 2 - 8 0 0 8
副 会 長	山 室 紀 雄	3 8 1 - 3 4 1 2
専 務 理 事	鈴 木 勝 志	3 5 2 - 3 6 6 3
常 務 理 事	宇 都 宮 啓 一	3 8 2 - 3 4 1 9
理 事(広報)	関 剛 一	3 5 3 - 0 2 1 2
〃 (医療)	牧 野 敬 美	3 5 2 - 5 7 7 4
〃 (厚生)	菅 原 洋	3 5 2 - 7 4 1 3
〃 (学校)	柿 原 康 男	3 6 4 - 3 8 1 2
〃 (社保)	杉 野 陽 二 郎	3 2 2 - 8 0 5 2
〃 (口腔)	田 島 宗 穂	3 6 4 - 9 6 9 2
〃 (学術)	伊 東 隆 利	3 4 3 - 0 3 7 7
監 事	山 隈 龍 祥	3 4 4 - 3 0 2 1
	緒 方 史 朗	3 5 2 - 3 3 6 6
中央部支部長	千 場 正 昭	3 5 2 - 0 6 8 6
北部1支部長	田 中 宏	3 5 2 - 1 8 6 4
北部2支部長	岩 本 義 人	3 4 3 - 0 6 3 9
東部1支部長	坂 梨 常 太 郎	3 6 6 - 1 8 1 1
東部2支部長	堀 川 義 治	3 8 3 - 1 8 2 7
東部3支部長	堀 川 秀 一	3 8 1 - 5 3 4 6
東部4支部長	才 田 雅 英	3 6 8 - 5 8 5 0
西部支部長	栗 原 幸 紘	3 5 3 - 6 0 6 7
南部支部長	富 田 久 之	3 6 4 - 0 9 3 8
小島支部長	赤 城 公 徳	2 2 7 - 2 3 3 7
川尻支部長	伊 藤 友 己	3 2 5 - 6 5 6 5

委員会名簿

医療管理委員会

牧 野 敬 美……………352-5774
 千 場 正 昭……………352-0686
 永 野 秀 雄……………344-5224
 友 枝 和 夫……………339-4593
 徳 永 俊 英……………365-1971
 河 野 哲 朗……………357-9256
 西 田 宗 剛……………338-8324
 新 村 健 三……………365-6510

学校歯科委員会

柿 原 康 男……………364-3812
 合 沢 康 生……………365-3021
 緒 方 義 昌……………324-3315
 太 田 憲 生……………367-9665
 斎 藤 健……………344-8180
 中 川 順 一……………325-3156
 藤 波 好 文……………345-7325
 松 本 一 之……………383-6031
 三 笠 司……………324-7287

学 術 委 員 会

伊 東 隆 利……………343-0377
 藤 波 剛……………364-9025
 成 松 賢 二……………357-3692
 大 嶋 健 一……………343-7007
 岩 村 泰 行……………382-3588
 斎 藤 朗……………352-7779
 奈 良 健 一……………329-8318
 池 上 富 雄……………325-1776

口腔衛生委員会

田 島 宗 穂……………364-9692
 岡 田 知 久……………363-4871

青 木 道 育……………343-3437
 分 山 和 男……………326-2113
 岡 本 寛……………384-4182
 矢毛石 豊……………338-7018
 村 上 辰 郎……………379-3588
 弥 永 康 博……………326-3272

厚 生 委 員 会

菅 原 洋……………352-7413
 有 吉 啓 一……………352-6577
 住 本 和 隆……………352-5753
 内 田 隆……………366-9404
 吉 永 誠一郎……………382-7338
 古 賀 明……………364-8351
 柿 原 訓……………276-1151
 山 村 定 信……………389-1717
 奥 田 洋 実……………343-5673

広 報 委 員 会

関 剛 一……………353-0212
 坂 本 憲 昭……………366-1358
 寺 脇 博……………356-7778
 緒 方 孝 則……………344-9149
 浜 坂 浩……………354-2133
 奥 村 敏 之……………353-5448
 寺 島 美 史……………378-9361
 松 原 邦 衛……………381-8148

社 保 委 員 会

杉 野 陽二郎……………322-8052
 本 田 亘……………362-3613
 富 田 久 之……………364-0938
 上 村 次 郎……………356-7894
 中 西 一 夫……………367-7808
 松 本 真 典……………362-6604
 赤 城 公 徳……………227-2337
 森 尾 謙二郎……………365-0644

昭和60年度市選出県代議員

№	代 議 員	№	予 備 代 議 員
1	川 崎 正 士 352-8008	1	栗 原 幸 紘 353-6067
2	山 室 紀 雄 381-3412	2	堀 川 秀 一 381-5346
3	鈴 木 勝 志 352-3663	3	赤 城 公 徳 227-2337
4	宇都宮 啓 一 382-3419	4	伊 藤 友 己 325-6565
5	関 剛 一 353-0212	5	富 田 久 之 364-0938
6	牧 野 敬 美 352-5774	6	菊 池 英 一 383-3512
7	菅 原 洋 352-7413	7	添 島 正 和 381-4118
8	柿 原 康 男 364-3812	8	野 村 雄 幸 384-3066
9	杉 野 陽二郎 322-8052	9	片 山 隆 昭 367-4588
10	田 島 宗 穂 364-9692	10	上 村 次 郎 356-7894
11	伊 東 隆 利 343-0377	11	久保田 晴 一 357-2421
12	岩 本 義 人 343-0639	12	宇 治 道 孝 383-0333
13	千 場 正 昭 352-0686	13	本 田 亘 362-3613
14	坂 梨 常太郎 366-1811	14	合 澤 康 生 365-3021
15	才 田 雅 英 368-5850	15	岡 田 知 久 363-4871
16	田 中 宏 352-1864	16	松 本 一 之 383-6031
17	堀 川 義 治 383-1827		

昭和60年度市選出政治連盟評議員

№	政 治 連 盟 評 議 員	№	政 治 連 盟 予 備 評 議 員
1	川 崎 正 士 352-8008	1	関 剛 一 353-0212
2	山 室 紀 雄 381-3412	2	柿 原 康 男 364-3812
3	鈴 木 勝 志 352-3663	3	坂 梨 常太郎 366-1811
4	宇都宮 啓 一 382-3419	4	千 場 正 昭 352-0686
5	菅 原 洋 352-7413	5	富 田 久 之 364-0938
6	杉 野 陽二郎 322-8052	6	田 中 宏 352-1864
7	田 島 宗 穂 364-9692	7	堀 川 義 治 383-1827
8	岩 本 義 人 343-0639	8	才 田 雅 英 368-5850
9	伊 東 隆 利 343-0377	9	栗 原 幸 紘 353-6067

昭和60年度市選出国保組合会議員

国保組合会議員

№				
1	川	崎	正 士	352-8008
2	鈴	木	勝 志	352-3663
3	牧	野	敬 美	352-5774
4	関		剛 一	353-0212
5	柿	原	康 男	364-3812
6	坂	梨	常太郎	366-1811
7	千	場	正 昭	352-0686
8	堀	川	秀 一	381-5346
9	富	田	久 之	364-0938
10	栗	原	幸 紘	353-6067
11	赤	城	公 徳	227-2337

国保組合予備会議員

1	伊	藤	友	己	3 2 5 - 6 5 6 5
2	山	室	紀	雄	3 8 1 - 3 4 1 2
3	宇都宮	啓	一		3 8 2 - 3 4 1 9
4	菅	原		洋	3 5 2 - 7 4 1 3
5	田	島	宗	穂	3 6 4 - 9 6 9 2
6	才	田	雅	英	3 6 8 - 5 8 5 0
7	堀	川	義	治	3 8 3 - 1 8 2 7
8	田	中		宏	3 5 2 - 1 8 6 4
9	本	田		亘	3 6 2 - 3 6 1 3
10	坂	本	憲	昭	3 6 6 - 1 3 5 8
11	岩	本	義	人	3 4 3 - 0 6 3 9

資格審議委員会

1	大	関	英 明	352-4271
2	杉	野	政 敏	352-8016
3	中	根	俊 吾	353-3041
4	林		正 之	352-2778

選挙管理委員会

1	伊	東	武 嗣	343-0377
2	林	田	充 成	352-9607
3	小	堀	大 介	352-1959
4	鶴	田	実 馬	368-2319

裁定審議委員会

1	林	田	充 成	3 5 2-9 6 0 7
2	齋	藤	孝 一	3 5 2-7 7 7 9
3	山	内	涇	3 4 3-3 3 5 7
4	松	本	謙 一	3 2 5-3 0 7 1
5	片	岡	幸	3 5 7-9 2 5 3

スタッフレベルアップ研修会

医療管理委員会 徳永俊英

去る6月22日土曜日に、医療管理委員会主催の、スタッフレベルアップ研修会が、上通り同仁堂四階ホール、スタジオライフに於いて、行なわれた。千場正昭先生の司会のもと、先ず、川崎会長の御挨拶に始まり、講師紹介に移った。今年は、昨年と違い、A D I 能力開発研究所所長の石谷隆子先生を、大阪よりお招きし、2時間半の講演をして頂いた。会場には、約280名程が集まり、立っておられる人々もあり、会場は、若い女性の熱気で充満し、石谷先生も最初は、少々緊張気味であった。

I. 患者さんを満足させるには

先ず、「患者さんを満足させるには」というテーマで、講演が始まった。患者さんを、満足させるには、1人1人のスタッフが、患者の立場に立って、思いやりを込めて応対し、肉体的にも、精神的にも、病んでいる患者に心細かいサービスを行う事が必要であるという事だった。

II 是非マスターしたいスタッフマナー

次に、スタッフマナーに、話しが移り、マナーとは、㊦+㊧の二つで表現され、先ず、心が、入ってないといけない。すなわち、感



謝の気持ちが必要であるという事であった。そして、応対マナーに必要な三つのSがある。

1. Smile (思いやりを込めて、微笑む)
2. Smart (スマートに、応対する)
3. Sincerity (誠意をもって、応対する)

以上の三つで、常にスタッフの方々は、これ等を心に、とどめて、応対して欲しいという事だった。

次に、「みだしなみ」についての話があり、特に、受付は、その医院の顔なので、常に、その事を心がけて、患者さんに応対し、特に、新患の場合、受付との接触が、その医院の、第一印象につながるの、どのような事があっても、さわやかに、応対する事が必要である。又、衛生士や、助手の人々は、常に清潔さ、さわやかさを心がけ、てきぱきと仕事を行い、その際には、姿勢に十分注意する。何をやるにも、姿勢が良くないと、次の行動にスムー

スに、移行できないし、見ている側からも、仕事ができる様に見えて、安心感が湧くという事だった。そして、患者さんが、入って来られたら、必ず、スタッフから、あいさつをする。絶対に、患者さんより先に、あいさつをする事が必要である。又1人1人が、ハイオアシスを頭に入れて、実行する様という事だった。

ハイオアシスとは、

ハ……はい

イ……いいえ

オ……おはようございます。

ア……ありがとうございました。

シ……失礼いたします。

ス……すみません。

Ⅲ. ハートコミュニケーションとセルフアップ

ハートコミュニケーションとは、患者サイドとの心のつながりであり、自分を知ってもらい、相手を知るという事で、これにより、親しみが湧き、患者も心を開いて、自分の症状を述べるので、ドクターもそれに対して、的確な処置ができるようになる。又、セルフア



ップとは、自分自身を、常に、向上させ様という努力で、自分自身が、輝く為には、

1. 自分自身の肉体的、精神的な健康管理
2. プラスイメージ

自分にとって、何か不都合、不利な事態が生じて、それについて、くよくよ悩まず、良い方向へ考えをもっていき、前向きに解釈し一つずつ、解決してゆく。

3. 目標を持つ

自分自身で、一年後、五年後、十年後と、目標を持ち、その目標に向かって、一歩ずつ努力する。それが、自分自身の人間向上に、大いに貢献する。

以上の他に、特に「話し方、聞き方」について、お話しがあった。

“話し方”としては

1. 患者さんの判る言葉で話す。
専門用語を、むやみに使用しない。
2. 患者さんの状況に合わせて、話す。
3. 結論から、先に述べて、要領よく話す。
4. 話す時は、相手の目を見て話す。

“聞き方”としては、

1. 相手の目を見て、聞く。
2. 上手な相づちを、打つ。
3. 相手の立場に立って、聞いてやる。

次に、「電話での応対の方法」に移り、電話があった場合 “もしもし”ではなく、

“ハイ〇〇歯科医院です。”と、こちらの医院名を・先ずいう事が必要で、午前中だったら “お早ようございます。〇〇歯科医院です。”という様にする。

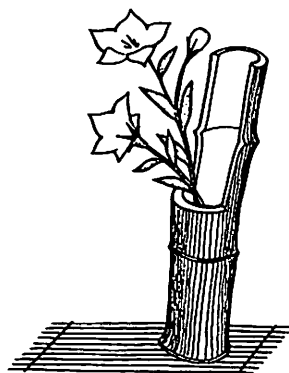
それから、電話が鳴ったら、必ず早めに、受話器をとる事。受話器をとった人は、最後

まで責任を持ち、ドクターに対しての電話だったら、ドクターが受話器を取るまで責任を持ち、少々時間がかかる場合、ドクターに代って、「今、先生は、治療中で手が離せませんので、少々おまち下さい」と電話をして、相手がイライラするのを、緩和する。又、電話は最後が大事で、静かに受話器をおく事が必要である。

以上の様なお話しがあり、時々、石谷先生

から、聞いているスタッフの人々に質問があり、それに、答えるという、講師とスタッフの間での、コミュニケーションもあり、和気あいあいで、楽しく、あっという間に、2時間半が過ぎ、スタッフの人々も、熱心に、メモをとっていた。

最後に、理事の牧野先生より、謝辞があり、盛会のうちに終了した。



昭和60年度第34回

「母と子のよい歯のコンクール」

口腔衛生委員 弥永康博
分山和男

昭和60年5月25日(土)、熊本保健所に於いて熊本市・熊本市歯科医師会主催による第34回「母と子のよい歯のコンクール」が行なわれた。出席者は、熊本市内の各保健所に於いて実施された3歳児検診の際、発育状態、並びに口腔内の健康が十分保持されていると思われる15組がコンクールに参加した。

審査は、熊本市歯科医師会の口腔衛生委員と当保健所勤務の吉良直子先生を含めた4名により、歯牙・歯列・咬合・歯肉・歯口清掃等の状態を区分し、母子合計200点満点の減点法で点数をつけ、4名の審査員の合計点数により評価した後、入賞者のみもう1度審査を行なった。厳正なる審査の結果、優秀賞の



2組、優良賞の4組が選出された。

例年のことではあるが、審査の結果は母親の状態で左右される形となった。近年、輸入食品、加工食品、インスタント食品等の食物が豊富になり、食生活に変化をもたらし、口腔内環境を悪化させているなかで、コンクールに参加された母子は、口腔衛生に気を配られてきたものと思う。これからも口腔衛生管理を今までのように続けていかれるならば、日本歯科医師会が掲げている「一生自分の歯で食べる」ことが出来ると確信する。又、この参加者が口腔衛生管理の地域の Opiniオンリーダーとなられることを切望する。

引き続き川崎会長の挨拶、矢毛石先生の審



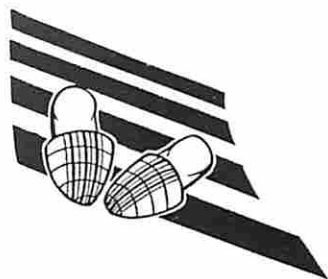
査講評の後、表彰式が行なわれ終了した。関係者の方々の御協力に心より感謝致します。



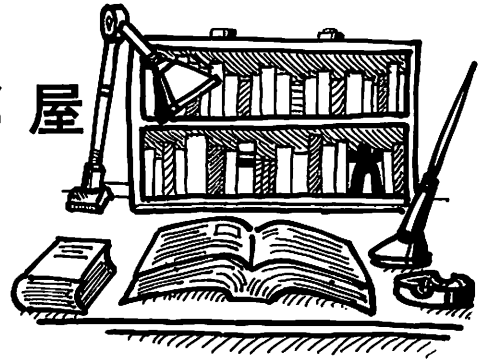
優秀賞 坂 本 和 子・恵



優秀賞 織 方 ま よ・元 樹



勉強部屋



私の10数年間の 歯内療法を顧みて

堀川 秀一

はじめに

日頃臨床にあたっていて、歯内療法は悩みの種である。私自身が歯内療法を施した歯牙の経過や、すでに歯内療法が施されている歯牙の行く末が予測出来ないための苛立ちである。そこでこの問題を少しでも解決したいと考え7～15年にわたって経過観察することが出来た150余例についてX Ray写真をもとに報告致します。

根管充填の方法

キャナルスを根管シーラーとして、ガッタパーチャ・ポイントを用いる lateral-Condensation 法で行った。

私の根管処置の変遷

私の臨床で根管充填剤を糊剤からガッタパーチャ・ポイントに切り替えて16年余りになり、その後約5年は over filling の根管充填を行って来た。それは根尖部の完全な閉鎖と死腔を作らないことによるものでもあった。

時として根管側枝までシーラーが充填され

ると得意になったのもこの頃であった。根管は過剰拡大し多数のアクセサリー・ポイントを使用し、強圧をもって充填を行っていた。その結果、ポイント及びシーラーは根尖孔外に溢出していた。数年経過してもポイントやシーラーは吸収出来ず、根尖部の治癒は良くない。又根充直後は急性症状を呈することも頻繁に起きていた。そこで over filling の時代は終りをづけ、10年程前より under filling の時代へ移る。この頃は根尖 0.5 mm とか 1.5 mm が理想であると色々話題が多かった。従って over-filling の X Ray は殆んど姿を消し、under-filling の X Ray 写真が主流となる。最近も同様の考えで行っているが、根管洗浄のための薬液は殆んど使用せず、水又は生理食塩水が主流となっている。この際、根管内の清掃や切削片の除去のため超音波洗浄を利用することにより、根管充填後の疼痛は一段と少なくなってきた。



図 1
over fillingでガッタ
・パーチャポイント
及びシーラーの過剰
充填が行われている。



図 2
5 年経過
まだガッタ・パーチ
ャポイントが残存し
ていて完全な治癒に
至っていない。

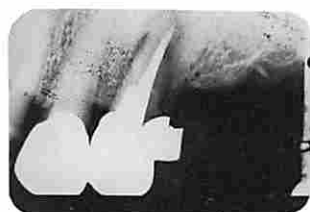


図 3
過大根管拡大及び強
圧根管充填による歯
根の破折と思われる。
根充 5 年目。



図 4
根尖部膿瘍形成
初診時



図 5
根管充填直後



図 6
3 年経過



図 7
4 年後再び膿瘍形成



図 8
根尖部搔爬 1 年経過

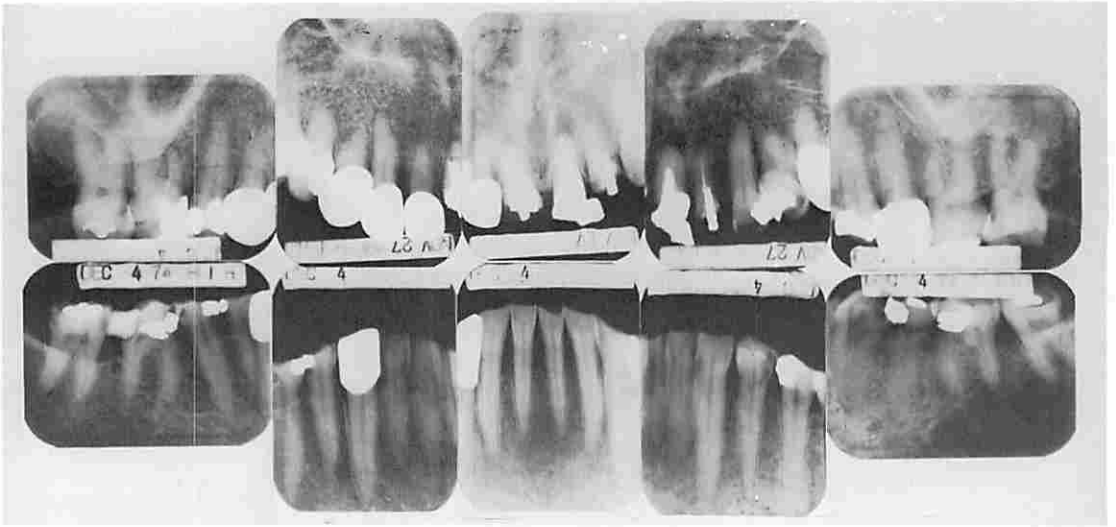


図9 初診時のX Ray写真

初診49年 53才♀

主訴 歯内出血 1 | 1・2の破損

歯周病 歯内療法 クラウン・ブリッジのケースであるが、ここでは $\frac{65432}{5}$ の歯内療法に関する経過だけをのべてみた。

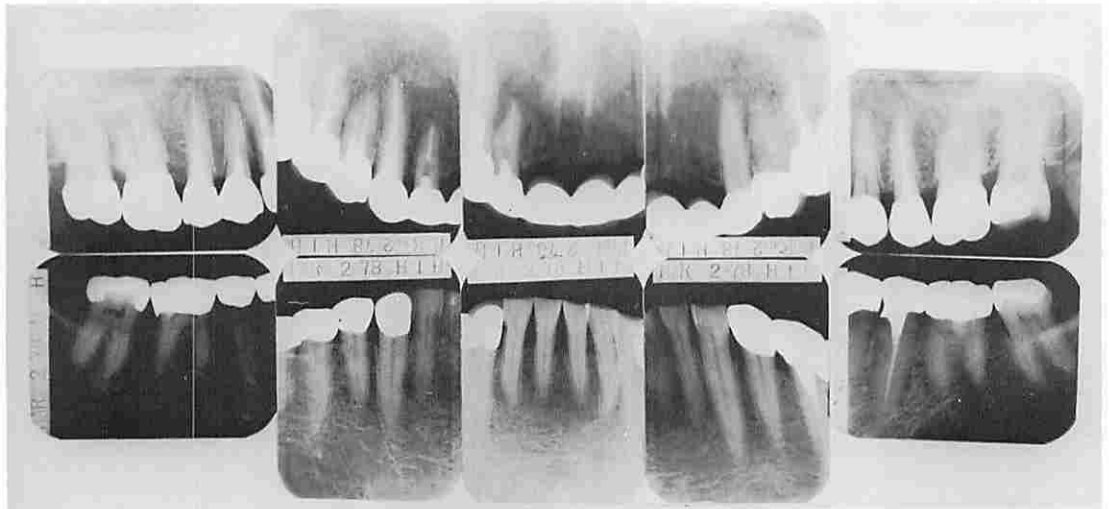


図10 処置完了後4年目X Ray写真

この時代はUnder-fillingに移行した直後のケースであるが、オーバーな根管充填が多いようである。しかし経過は良好である。

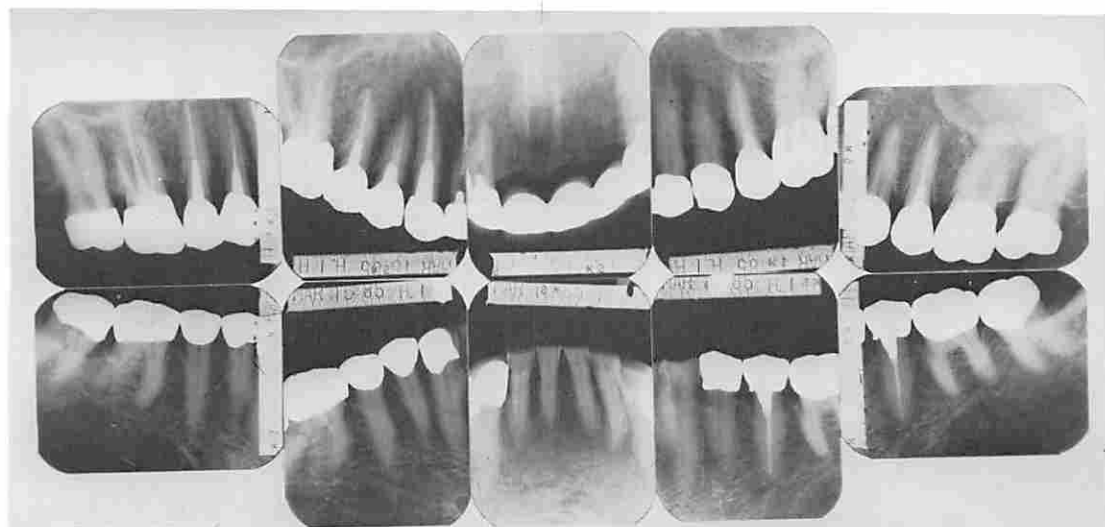


図11 11年後のX Ray写真

根尖部のリジョンは認めない。この症例と同様7年を経過した全症例において再発は全く認められなかった。

ま と め

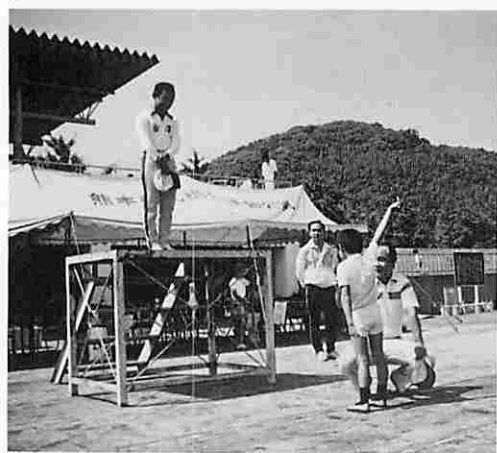
積極的な over-filling の時代は欠点が多くみられた。それは、根管充填後の疼痛、治癒の遅れ、歯根破折の原因となって現れている。Under-filling で、根管充填を行うようになって前者の欠点はかなり姿を消していった。

再発について、根充後3年未満のものには10数%の再発が認められた。厳格な目で診査すれば比率はもっと高率になると考えられる。

次に5年経過の場合は3%弱の再発であった。では何年経過すれば安心出来るのか。私の場合7年以上になれば以上のケースの中では1例も再発は認め得ない。但し、カリエスや歯周病又は事故による脱落は認められた。この結果を現在の治療指針として毎日の臨床に役立っている。又10年を経過したX Rayフィルムを整理に困り5年分全部を処分した事が今日悔まれてならない。

新樹会運動会

新樹会 中川 順一

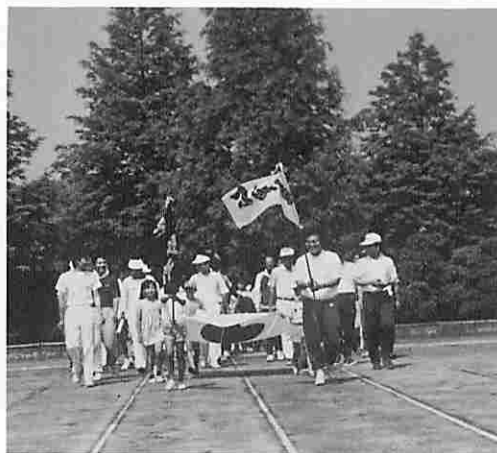


去る5月26日日曜日、当初雨天を心配されていた（去年は雨の為に中止になっています）新樹会の運動会が雲ひとつない青空のもとで行なわれました。

開会の言葉、国旗掲揚、議長・来賓の挨拶、競技上の注意、選手宣誓の後皆さんでラジオ体操で体をほぐして、いよいよ競技が始まりました。先ず最初は幼児・子供の徒歩競走からです。顔いっぱい笑顔にして走る子、真剣な顔して走る子、のんきな顔してキョロキョロしながら歩いている子、はたまた途中で泣き出す子もいるはで、最初から大にぎやかです。泣いていた子供も（全員に配られた）賞品をもらってお母さんに手を引かれて戻っ

てゆく時には機嫌も直っていた様です。

幼児子供や女性が大半の運動会ですからプログラムのほうもあまりハードなものではなく、みんなが笑って楽しめる様なものばかりです。ラムネ飲み競走・あめ食い競争・障害物競走・人さがし・物さがし・3人4脚・夫婦交換等々全部で14の競技が午後の3時頃までくりひろげられました。回りで見ている方は滑稽で楽しいのですが、競技している当人達はすごく真剣な顔をしてやっています。然しその真剣さがあったから皆誰一人のケガ人もなく無事終了出来たのでしょう。昼食後行なわれたフォークダンスも見ものでした。フォークダンスというよりも幼稚園のお遊戯の様なおど



りに皆一生懸命で楽しそうでした。特に新樹会OBの先生方も年齢を忘れて打ち興じておられたのが目に付きました。最初のスローガンである「皆の楽しい運動会」の言葉どうり

皆さん普段の診療のストレスも忘れて一日楽しく過ごされた事と思います。

本当に皆さん一日ご苦労様でした。また来年も晴天に恵まれ楽しい一日が過せます様に。



第6回 熊本市学校保健合同研修会

「自ら進んで健康生活を実践する 児童生徒の育成」

学校歯科委員 合 沢 康 生

期日：昭和60年6月13日(木)

会場：熊本市産業文化会館（7階ホール）

上記の日程で、第6回、熊本市学校保健合同研修会が開催されました。最近の生活の様式や環境の変化に伴い、児童生徒の疾病の増加、体力不足など、健康に関する問題が多く指摘されている。

児童生徒が、生涯にわたって、健康生活を営むためには、自らの健康を、自ら管理できる能力を、身につけることが必要である。本市における、児童生徒の健康状況の実態を把握し、学校、家庭、そして学校医の先生方と連携をとりながら、心身共に健康な児童生徒を、育成することは有意義なことである。

という趣旨の下に、熊本市教育委員会、熊本市学校保健会の主催で、参加者は、学校長(教頭)、保健主事、養護教諭、養護技師、学校関係教諭、PTA代表、医師会、歯科医師会、薬剤師会など、総数500名を越える数でありました。

13時より14時まで、学校保健会総会が行なわれ、昨年の事業報告、並びに、歯科関係



として、学校歯科医功労者の表彰が行なわれました。白山小学校の本田 亘先生、出水小学校の堀川義治先生が、市より表彰されました。

引き続き、14時10分より、学校保健合同研修会が行なわれ、市歯科医師会より、「むし歯0(ゼロ)をめざして」という内容で、私が、又、熊本短期大学教授、澤田芳男先生の「歩かなくなった子供たち」という講演が行なわれました。

内容は、歯の役割、歯の生いたち、6歳臼歯の大事さ、むし歯の原因、おやつ、はみが

き方法など、スライドを使って説明し、又、月出小学校1～6年生の実際の口の中のスライドを使って、むし歯、歯周症、歯列不正、はみがき不足など説明したものでありました。歯は食物をかむためだけでなく、発音を正しくする、又、あごの形を整えて、顔の調和を整えるのに役立ち、あごの発育が充分でないと、歯列不正を招き易い。又一番咬合力の強い6歳臼歯をむし歯でなくすと、一生ものがかめないこと。はみがきは、みがいているけど、みがかれていない、という事を強調し、スクラッピング法、つつ込みみがきを指導致しました。又、小学生の問題として欠かせないのが、おやつの問題です。おやつは、原則として一日1回、時間と量を決める事。

夏、暑くなってくると、清涼飲料水はさけて、牛乳を出来るだけ多くとる事、市販のお



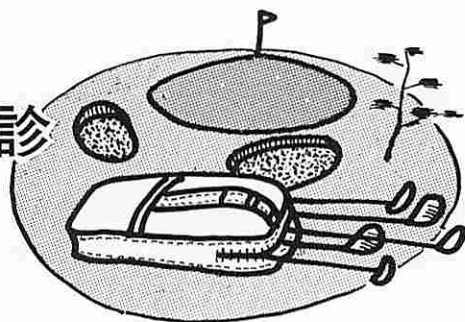
菓子を与えるには甘くて歯にくっつきやすいものはさける事etc。

家庭の事情によっても異なりますが、そういった一般的な事を、むし歯が出来なくなるまであきらめずに、くり返しくり返し、各家庭で指導する事が大切だと思います。

何時も、子供のむし歯という事を親が気を付ける事によって、「むし歯0(ゼロ)」は可能だと思います。以上の様な講演でした。



本日休診



うまかもんば食う会

関 剛 一

「おいみんな来月から家族ば含めてうまかもんば食う会ば月一回でもしようと思うとるばってんどぎゃんかい。会員は10人ばかりで良かたい」……これは故園田守生先生が昭和58年3月にマージャンメンバーの中で発案した言である。全員一致で賛成。

「うまかもんば食う会ではあまりにも田舎くさかですばい。いっそ今はやりのグルメ会にしたらどぎゃんですか」と田島宗穂氏。その後この会を「グルメ会」と名づけた。別の名を「歯科食品衛生研究会」ともいう。

現在会員は総勢14名、社会情勢、仕事、遊びと腹を割って話し合える友の集りである。

今年6月で20回を迎えたのであるが発案者の園田守生先生は第5回を終えた昭和58年8月に他界された。何といいようもない悲しみにつつまれたのであるが氏の意志を受け継いで鈴木勝志先生を会長にし増々盛況の内に今回に至っているのである。

この会は全くの会員の親睦会であり勉強会でもある。毎回違った店で料理の説明をチー

フあるいはおかみさんから聞いて味わい飲みながらマナーを学び又時には川崎会長を招待し諸々の話をうかがい、歯科医師会の現状、医院経営状態、将来等をざっくばらんに話し合いながら楽しく一夜をすごすのである。各月には会員の誕生日を祝い、厄入り厄晴れの祝い、又ゴルフ大会、マージャン大会、一泊の小旅行等、遊びに勉強会にと巾の広い会でもある。ここで20回のグルメ会の開催店を紹介します。各店共皆満足し、お世話になった店です。一度先生方味わってみて下さい。

第1回 S.58.4

絹之路 熊本市本荘



中国料理 海鮮料理

第2回 S.58.5

ニュースカイホテル

西洋料理

第3回 S.58.6

岩本支店 下益城郡砥用町

あゆ料理

第4回 S.58.7

山査子 熊本市上通り

京料理

第5回 S.58.8

みやくら 熊本市上通り

ステーキ料理

第6回 S.58.9

姫戸 天草姫戸町

かに料理

第7回 S.58.10

前田スッポン 下益城郡城南町

スッポン料理

第8回 S.58.12

いかり 熊本市下通り

和食

第9回 S.59.1

桃山 熊本市下通り

和食

第10回 S.59.2

加茂川 熊本市上通り

すき焼、しゃぶしゃぶ

第11回 S.59.3

大善 熊本市下通り

かに料理

第12回 S.59.4

せつこ 熊本市新屋敷



山菜料理

第13回 S.59.5

ホテルキャッスル

西洋料理

第14回 S.59.6

絹之路 熊本市本荘

中国料理 海鮮料理

第15回 S.59.7

阿蘇高原ホテル

バーベキュー

第16回 S.59.10

姫戸 天草

かに料理

第17回 S.59.12

薔薇亭 熊本市下通り

ステーキ

第18回 S.60.1

一条 福岡市

ふぐ料理

第19回 S.60.5

せつこ 熊本市新屋敷

山菜料理

第20回 S.60.6

とくなが 上益城郡嘉島町

うなぎ料理

『人類進化の一側面と 認識について』を読んで

— 禪的発想について —

東部 2 西川 庄次

熊本歯科医師会誌 50 号の遠山啓介先生の「人類進化の一側面と認識について」を読んで考えたことを述べたい。まず私の結論を先に述べてしまえば、たったの一句に成る。「両頭俱截断一剣天倚寒」という禅語です。先生の考えられる様な、二つの判断（前提）から第三の判断（結論）を出す三段論法でなく、禪的発想の一段論法もあるという事です。

先生は結論として「私は客観的認識は不可能だと思う。客観らしきものがあればそれは主観的認識の最大公約数みたいなものである」と言われる。この認識方法では反常識的な帰結にならざるを得ない。つまり我々の主観に拘る客観的真理を否定すれば、凡てを個人の意識内容に帰着させて、一切の事物を個人の概念に他ならないと考えざるを得ない。必然的に真に存在するのはただ自我と、その意識だけであり、それ以外の世界は客観的には存在せず、自己の意識の所産にすぎぬものと帰結する。これは我々の常識に背く迷妄であるとは言え、客観的認識を認めぬ為の必然的帰結である。

我々の知覚の主観から出発して、物質的世

界の客観的实在を否定する主観的観念論、その典型的代表者のバークリ（18世紀のアイランドの聖職者）でさえこの独断論に落込むのを避ける為に「感覚的な世界を包みささえる無限かつ普遍的な精神」を認めざるを得なかった。

そもそも客観は主観に向って投げられたものを意味し、それ自ら存在するもので、主観に対して独立している。即ち個人的、歴史的な特定の主観の意見や評価等から独立しており、普遍に近いものです。

先生は客観的認識の不可能な例としてコップを二人で見た場合の差位等のことを揚げられている。この点、私はこう思う。二人が「これはコップだ」と認識すればコップという客観的認識は成立している。コップは主観に拘らず普遍性を持ってコップとして有り続けている。普遍性以外の色や形等の属性に関する認識は二人の歴史的、環境的、個人的なものの、つまり主観的認識であると。

「虫歯は虫歯である」、Aの人には「虫歯はむしば」であり、Bの人には「虫歯はカリエス」であっても「虫歯」という客観的認識

は成立しなければならない。だから客観性はないのではなく、主観を根拠としているという常識的な事に尽きてしまう。

先生が客観的認識を不可能とされるのはコップという「存在自体」の認識をもって客観的認識とされているからだと思う。先生は別の所で「我々の認識出来るのは物自体でなく現象である。」と言われているから私がそう言うのは間違っているかもしれないが「存在の意味」等を論じられているので、「存在自体の認識」をもって客観的認識とされている。

先生も言われるように認識出来るのは物自体でなく現象なのだから、「存在の意味」を論じられても何の意味もない。認識不可能であるからだ。

物自体あるいは存在自体は時間、空間を超越してしまった現象界にないものであり、私は時間的・空間的現象界の消滅する真只中に居るからである。

コップは元素からなり、原子核を中心として電子、中間子などの結合から成る運動体としてある。コップは運動の現象として今、コップとしてある訳だから、其の現象を超越した「コップ自体（存在自体）」の認識は不可能だ。

カントの昔から、其の様な認識を成そうとすることは認識能力の限界や本質に就いて吟味せず、純粋な理性に依って実在を認識しようとする独断論として非難されている。

存在自体を認識判断する能力が我々にはない。それは存在するとも、存在しないとも、論証出来ず、我々の現象界とは無関係なものである。論理的に不可能だが、仮に現象を超

えた存在自体が認識されても現象界の我々に何の役に立つのだ。我々の役に立つ自然科学、人文科学、社会科学は凡て自然の人文の社会の現象の学問だ。

「存在」は「有」ともいわれ〈ある〉ことあるいは〈あるもの〉を意味する。この〈ある〉こと及び〈あるもの〉は最も普遍的な単純な概念である。従って普遍的な概念を用いてこれを定義付けする事すら出来ないしもののだ。

先生は最後に「主観と客観との一致を求めるのは何故か、それは無規定な精神が己れの規定性を得るための自らの運動」と言われる。私は「無規定な精神」とは思わず「人々具足円成」と信じるが、その方向には同意する。だが、主観と客観との一致はヨーロッパ的思考法ではあり得ない。何故なら、客観は主観に独立している。主観と客観は相対立してこそ成立するのだから。

そこでこの問題解決の為には思考の次元を変えなければならぬ。

よく言われるデカルトの「我思う故に我あり」というようなヨーロッパ的自我の確立での上の思考法は対立的、分析的である。どこまでも自己に対立する、主観に対するものとして捉える。外的存在は凡て主観に対立して、主観に依って変えられ利用される。

主観を土台にして変えるから一切の繋がり^{つな}がりが切れてしまう。

我々は「分った」とものを二つに区別し分析することによって認識する。これがまた文明を発達させたのであろうが、分析されたものの命はない。水は二つの元素と分析的に認

識すれば、毎日飲む、おいしい水の命はない。
此の分別の二元相対観の世界から抜ける事は
出来ぬものか。

主観は主観として、客観は客観として、こ
の相対するものに囚われない境地はないか。

ここに禅的発想が開かれる。

「両頭俱截断一剣天倚寒」〈両頭俱に截断
して一剣天に倚って寒じ〉両頭は相対的な見
方・考え方をさす。私の和尚（禅僧）は「寒
じ」を「寒し」とも読まれる。対立に囚われ
ない寒い境地、それは禅の悟の中にあるの
ではないか。悟りは差をとることとか、空じ
ることなどと言われる。現象は空に自性なく、
現象に実体はないと知る禅の世界はあれこれ
詮索すべき世界ではなく論理を超えた世界で
あり、不立文字で文字を立てない、また「体
験せぬ者には開かぬ門」とも言われるので、
ただひたすらの修行で空じて行かなければな
らぬのだが。最後に良寛和尚の歌。

因指見其月 指に因ってその月を見
因月弁其指 月に因ってその指を弁ず
此月与此指 この月とこの指と
非同復非異 同じにあらずまた異にあらず
将欲誘初機 まさに初機を誘はんと欲して
仮説箇譬子 かりに箇の譬子を説く
如実識得了 如実に識得しおはらば
無月復無指 月もなくまた指もなけん

指さして月はあそこと告げる時
指こそ月によって指さされておるのじゃ
月と指とは、別の物でありながら
このとき、いったいとなっておる。
この譬え話は初心者にするのだが
坐禅で、如実に自己を悟りきれば
月も指もない無差別平等の境に
安住できることになるのじゃが

「良寛詩集譯」 飯田利行者より



60年度 補助者講習会開催さる

学術委員会 齊 藤 朗

熊本市学術委員会主催による補助者講習会が、去る5月12日県歯科医師会館3Fホールにおいて開催されました。この補助者講習会は毎年この季節に新期採用の衛生士、助手を対象として開かれますが、続々登場する新製品や材料の改良発展を考えても、ベテランの衛生士や助手の方々に参加していただいても結構だと思われま

当日は、G C社から3名のインストラクター

が出席され、補助者の指導にあたってくださいました。講習会の内容は歯科材料の物理的、化学的な性質とその使用方法をインストラクターの講義とスライドにより説明し、その後3班に分かれて、印象材や接着材の使用法を模型を使用して実習するという内容で、かなり豊富で厳しいスケジュールでしたが、皆さんてきばきと消化してゆき、午後3時すぎには全て終了し受講証を携えて帰宅しました。

おしらせ

熊本市学術講演会

8月10日(土) PM 2:³⁰~~00~~~7:00

県歯科医師会館 3F

〈演 題〉

“全身疾患患者の歯科治療緊急時における偶発症とその処置、(仮題)

— 心疾患、四液疾患・糖尿病等 —

〈講 師〉

九大歯学部 岡 増一郎教授

当日は“救急処置の実習、

“院内スタッフに対する救急処置の講演、

も合わせて行ないます。

先生、スタッフの方々の多数の御参加をお願い致します。

新入会員紹介



1. 氏 名 西 口 和 弘

2. 住 所

(自 宅) 熊本市保田窪本町612-2 東都マンション401

TEL 382-4714

(診療所) 熊本市長嶺町783

TEL 380-5174

3. 生年月日 S.30.1.4生

4. 趣 味 日光浴

5. 好きなことば 小事を気にせず流れる雲の如し

6. 経 歴 S.56.3 神奈川歯科大学卒業

S.56.4 浦和市西部病院勤務

S.59.3 浦和市西部病院退職

S.59.4 熊本市柿原歯科医院勤務

S.59.10 熊本市柿原歯科医院退職

S.59.11 熊本大学附属病院歯科口腔外科勤務

S.60.3 熊本大学附属病院歯科口腔外科退職

S.60.4 西口歯科医院開院、現在に至る。

7. 家族構成 (氏名、生年月日、続柄)

西 口 ゆかり (S.34.9.12生 妻)

西 口 はるな (S.60.2.28生 長女)



1. 氏 名 中 西 久 人
2. 住 所
(自 宅) 熊本市白山 1-2-9
(診療所) 熊本市健軍 3-50-19
3. 生年月日 S.29.10.4 生
4. 趣 味 スキューバダイビング
5. 好きなことば 日々新なり

TEL 364-4363

TEL 365-4066

6. 経 歴 S.54年 東歯大卒
S.54年 中村歯科勤務 (神奈川県大船)
S.58年 山川歯科勤務 (沖縄県浦添)

7. 家族構成 (氏名、生年月日、続柄)

中 西 久 (父)
中 西 容 子 (母)
中 西 久 和 (弟)



1. 氏 名 川 原 雄 次
2. 住 所
(自 宅) 熊本市新町 3丁目 9番10号
(診療所) 熊本市新屋敷 2丁目 2番地11
3. 生年月日 S.30.12.18生
4. 趣 味 野球
5. 好きなことば 努力

TEL 355-1058

TEL 363-7004

6. 経 歴 S.55.3 東北歯科大学卒業
S.55.4~S.57.3 東京歯科大学補綴科
S.57.4~S.58.3 東京麻布岡村歯科勤務
S.58.4~S.59.3 東京葛城西村歯科勤務
S.59.4~S.60.3 熊本川崎歯科勤務

7. 家族構成 (氏名、生年月日、続柄)

川 原 文 雄 (T.10.4. 1生 父)
川 原 葉 子 (T.13.3.27生 母)
川 原 文 次 (S.22.3.14生 兄)
川 原 初 子 (S.24.3. 1生 姉)
川 原 幸 雄 (S.32.7.16生 弟)



1. 氏 名 ^{アリ} 有 ^{ヨシ} 吉 ^{ヒロシ} 洋

2. 住 所

(自 宅) 熊本市保田窪本町895-35

(診療所) 熊本市保田窪本町895-35

TEL 383-0011

TEL 381-0116

3. 生年月日 S.31.1.9生

4. 趣 味 テニス、バスケットボール

5. 好きなことば 特になし

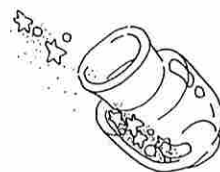
6. 経 歴 S.56. 6 やまとデンタルクリニック開業

S.59.12 やまとデンタルクリニック閉院

S.60. 6 ありよし歯科医院開業

7. 家族構成 (氏名、生年月日、続柄)

有 吉 ひとみ (S.32.4.16生 妻)



会 務 報 告

理 事 会

月 日	協 議 題
60. 4. 8	新執行部決定、その他
4. 18	60年度第1回理事会
5. 22	各委員会事業報告
6. 19	各委員会事業報告

口腔衛生委員会

月 日	協 議 題
60. 4. 4	年度計画
5. 17	母と子のよい歯のコンクールについて

医療管理委員会

月 日	協 議 題
60. 4. 11	年度計画
5. 15	アシスタント、セミナーの段取り、その他
6. 13	定款の内容検討、その他
6. 26	アシスタント、セミナーの反省、その他
7. 12	歯科医業経営実態調査報告書、アンケート項目の決定

広 報 委 員 会

月 日	協 議 題
60. 4. 5	第51号熊本市歯科医師会誌校正
5. 31	会誌52号編集会議
7. 1	第52号編集会議

厚 生 委 員 会

月 日	協 議 題
60. 4. 25	バレーボール大会について、その他
5. 23	バレーボール大会について、その他
6. 10	バレーボール大会について、その他
7. 1	バレーボール大会について、その他

学 術 委 員 会

月 日	協 議 題
60. 4. 25	補助者講習会について、その他
6. 10	救急蘇生法について
7. 10	8月10日の救急蘇生法について

社会保険委員会

月 日	協 議 題
60. 4. 24	前年度委員会会務引きつぎ
5. 28	県社保委員会と審査員との連絡協議会における資料の検討
6. 25	県社保委員会説明会

学校歯科委員会

月 日	協 議 題
60. 5. 9	年間事業計画・その他
6. 12	熊本市学校保健合同研修会について
7. 11	児童・生徒向けの口腔衛生指導のビデオフィルムの購入の件について その他

編集後記

新執行部が新たに発足し、役員一同張切っておられる様子が原稿を編集していてひしひしと感じられ、たのもしく感じております。今後、広報誌が会員各位の意識向上に役立てばと、望んで頑張る所存であります。

今後とも投稿の御協力をお願い致します。

熊本市歯科医師会会誌

第 52 号

発行日 昭和60年 7 月25日発行

発行所 熊本市歯科医師会

熊本市坪井2丁目3番6号

TEL (343) 6669

発行責任者 川崎正士

印刷所 コロニー印刷

熊本市二本木3丁目12-37

TEL (353) 1291